

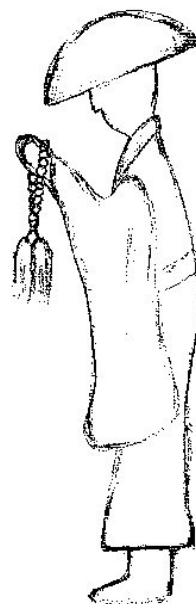
賜った命と 自覚されれば 迷信に拘らず 今日を力強く生きられる

ある高校の校長を退職した友人から相談の電話をいただきました。「勤めている頃、親しく種々力になってくれた同僚が去年の暮れに亡くなっており、案内がなかったので葬式もお参りができませんでした。その先生の死を先日知らされ、今度の命日にお焼香に伺うと先方の奥様に伝えたのですが、暦を見たらその日は友引なのです。どうしたものでしょうか？そしてもう一点、服装は礼服でなければいけないでしょうか？」と問われる。私は、「友引に拘るとは君らしくありませんね。仏教は因縁果の法則を説くので友引等の六曜に拘る必要はまったくありません。何の心配も要りません。」と答えると「安心しました。」と言われる。そして礼服のことは礼服でなくても結構ですが、お数珠を手にするのを忘れないでくださいとアドバイスしました。

自分は知識人であると内心想い、科学的に生きていることを自負している多くの方の中に友引だ、大安だと六曜に拘る人があまりにも多いのに驚きます。万物の霊長であると自任する現代人がなぜそんなことに拘るのでしょうか。現代人は科学で何事も解決できると思い込み、生きることに自信を持っているようですが、それは錯覚なのでしょう。本当の自信のある生き方ではないと思います。その証拠に大病を患ったり、窮地に陥ると途端に占い、方角、六曜等の迷信に流されてしまうのです。

生きる本当の自信は、自己の本当の姿に目覚め、全ては生かされている命、賜った命、お預かりした命であることを自覚する必要があるのです。自覚されますと本当に生きるとはどういう事か、何のために生きるのか、このことを真摯に問わずにおれなくなります。仏の教えにそのことを求めてください。仏法聴聞の中に求めてください。必ず今日を力強く生きる力が得られるでしょう。私は私で良かったのだ！力む必要はなかったのだ！この道を迷うことなくしっかり歩んでまいりますと言い切れる本当の自信が得られると思います。曹洞宗のお坊さんであられた良寛さんが「災難に遭う時節には災難に遭うがよく候。死ぬ時節には死ぬがよく候。これ災難をのがるる妙法にて候。」と申されましたが、まさにこうした生き方でありましょう。

春のお彼岸がまいります。静かに自分を見つめ、仏法聴聞の中に人間らしく生きる道を、悔いなく生きる人生を、安らぎと本当の喜びを味わえる人生を歩みたいものです。合掌

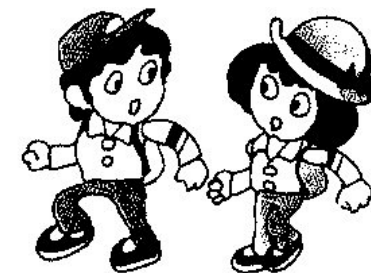


読者の広場

『春の山へ出かけませんか』

暑さ寒さも彼岸までと言いますが、これからの季節の野山は実に楽しいものです。地には草花が、木々には芽が出て空気も柔らかくなり、小鳥たちの鳴き声も陽気に響きます。散歩気分の里山から、少しきつけれど箱根、丹沢、高尾山あたりまで、それぞれの体力にあわせて選べる良い山が近くにたくさんあります。お弁当と水筒を持って歩いてみたいものです。

- ①：靴は履き慣れた運動靴を。できれば登山靴がよいです。
- ②：山の天気は変わりやすいので防寒着と雨具は必ず用意する。
- ③：登りよりも下りが案外きついです。疲れたら無理をせずに途中からでも戻りましょう。
- ④：日帰りのコースでも非常食と水は忘れずに持って行ってください。
- ⑤：簡単な場所でも事前の調べや地図を持つことをお奨めします。
- ⑥：万が一、暗くなってしまったときのために懐中電灯も用意しましょう。



では、楽しい山旅に行ってみよう！ M

『ばあばのつぶやき』

突然「妻が亡くなり、身内だけで葬儀を済ませました。」と電話をいただきました。去年から体調を崩し入院しておられ、何回かお見舞いに伺っては元気づけていた私の仲の良い友のご主人からの連絡でした。本人も、また家族の方も、皆さんに迷惑をかけたくないから身内、親族だけの家族葬という形でなされたことと、私はせめて最後に「ありがとう」「ご苦労様でした」とお送りしたかったのにと涙が止まりませんでした。

一概には言えませんが、家族のつながりも、人間関係のつながりも、地域のつながりも薄くなりつつあるような気がします。核家族となりそれぞれが煩わしいことは嫌と避けて通ってきたからではないのでしょうか？

また、ある方がお通夜のご連絡を受けたのですが、「お通夜の時間に間に合わず送って式場に伺ったら、もうどなたもおられず本当に悲しい寂しい思いをして帰ってきたのよ。」と言われました。

本弘寺さんの日曜礼拝にお参りさせていただき、いつも「人身受け難し、今すでに受く・・・」と三帰依文を大きな声で唱和させていただく中に思うのですが、尊い人間として生まれさせていただいたのですから、この世の最後をどのような形で迎えようが、一人でも多くの知人に送ってもらいたいものだと私は願うのです。友とのこのような別れを通して、いよいよ家族葬という事を考え直した方が良いのではと思うのです。気の付くままのばあばのつぶやきです。皆様どう思われますか？

ばあば